

総合患者支援センターニュース

Integrated Support Center for Patients and Self-learning
Okayama University Hospital

〒700-8558

岡山市鹿田町2丁目5番1号
岡山大学医学部・歯学部附属病院
総合患者支援センター

☎ 086-223-7151 (代表)

☎ 086-235-7744 (直通)

もう一度原点に返って支援の充実を

センター長 公文 裕巳

皆様、明けましておめでとうございます。

平素より、当センターの活動にご理解を賜り感謝申し上げます。「私たちは、患者様に最良の医療とケアを提供するために活動します」を合言葉として2003年4月に産声を上げてより、当センターは一般病院ボランティアの方々を含む多職種のスタッフに支えられて少しずつ成長を続けてきました。お蔭様で、当初よりの基本的事業項目であります、①患者と家族の支援（各種相談）、②患者自己学習の支援（図書室運営を含む）、③各種専門チームによる包括的・継続的な患者ケア、④医療ボランティア活動の活性化（オストメイトサロンなど）、⑤地域連携システムの高度化と遠隔医療支援等が継続的に実施できております。昨年は地域医療連携室活動も本格化し、本センターとの協働で外来受診から入退院まで支援の幅が広がりました。

専門化、複雑化した現代医療は多職種のチームで実践することとなりますが、いろいろな場面で患者様と個々の医療者の間をつないで下さる医療ボランティアの存在は極めて大きいものです。ボランティアの方々に参加いただくことでチーム全体の質の向上（目線の変化による優しさ）が図れ、病院全体の進化につながっていくものと考えています。ボランティア研修も充実しつつあり、本年からは、オストメイト（人工肛門、人工膀胱を造設された方）支援チームでは、研修を修了されたオストメイト（ピアサポーター）が本格的に活動を開始してくれます。

年頭にあたり、センターのロゴマーク「温かな支援の心と確かな知識や技術に裏打ちされた支援の手のぬくもり」の意味をかみしめながら、もう一度原点に返って目指す支援活動の充実を図っていきたいと考えております。

皆様からのご意見、ご要望とともにご支援をお願い申し上げます。



ボランティア活動

ボランティア感謝状授与式・交流会

長年、病院ボランティア活動をして頂いた方に対して、森田潔病院長から感謝状が手渡されました。
授与者は次の皆さんです。(敬称略)

【団体】

*特別感謝状

中国電力株式会社

平成17年から35名の方が週1～2回、2名ずつ交代で外来案内・患者図書室の活動に参加して下さいています。企業の社会貢献活動の一環で、積極的に取り組んで頂いています。



中国電力株式会社代表
藤原純子さん

ボランティアグループバンビ

平成13年から月に1回、小児科病棟プレイルームで子供達に遊びの時間を提供して下さいています。

【個人】

*活動時間1000時間以上

坪田真理

*活動時間500時間以上

中谷昌子

山口伯江

井脇養二

応江詔子

礪山幹雄

菱川素代

*活動時間200時間以上

太田葉子

ボランティア研修会

保健学科の教員が講師となり、車椅子の介助についての研修会を開催しました。



がんの患者と家族のためのクラブ「並木ひろば」

出張例会を開催しました

クラブ「並木ひろば」は「がんの悩み電話相談室」を母体に平成11年2月に設立されたボランティア組織です。

良い出会いと暖かい場づくりを基本に、会員相互のがんに関する情報交換、勉強会、親睦など、会員の合意に基づいて運営しています。現在、第三土曜日の午後の定例会には約10名の方々が集い、病気や治療のことだけでなく、人生、趣味、社会情勢から彼女？の話題まで、話が尽きません。平成17年9月14日には、初めて岡山大学病院総合患者支援センターで出張例会を開催させていただきました。副センター長の岡田先生、ソーシャルワーカーの石橋さんも輪に加わってくださり、いつもの話題がポンポン飛び出して初参加の先生方を驚かせたのではないかと思います。そして新入会員も増えて活動中です。毎週土曜日の午後は、かとう内科並木通り診療所の多目的室をお借りして、コーヒーを用意してお待ちしています。クラブ見学希望については、どうぞ気軽にご相談ください。

クラブ「並木ひろば」事務局 香川 優子

電話 090-4140-2500

情報コーナーが変わりました



西病棟から南病棟に向けた通路に、「情報コーナー」があるのをご存知ですか？患者様に医療情報を提供する場です。

この度新しくなり、展示用ショーケースと閲覧コーナーを設けました。患者様向けの医療情報の掲示、関連用具の展示を行っています。昨年末はオストメイト関連グッズを展示しました。

— 現在の展示テーマ —

「歯を大切にしましょう！」

歯についてのお知らせと資料の展示

医学図書
増加しました

患者図書室の医学図書を新しく購入、また院内各科からの寄贈を受け、大幅に増加しました。貸し出し・閲覧ができますので、患者様が病気について自己学習することができます。



こころのケア

(Vol. 4)

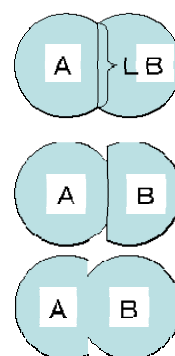
副センター長

岡田 宏基

<わかってくれない病の克服>

前回のこのコーナーで、「わかってくれない病」の発症について書きました。その克服のために、まず人間関係を次のような図で考えてみましょう。A があなた、B があなた以外の人とします。この図は、お互いが必要な程度に理解しあえている図と考えることができます。この図で L はお互いがお互いを理解している幅です。知りあって間もない時はこの L が狭いのですが、お互いに好ましく思うと、時間とともにこの L は広がってきます。L の幅の広さに関わらず、この図のような人間関係ではあまり問題は起きません。

では、次の図はどうでしょうか。これは、相手は門戸を開いているのに、自分が狭くしている場合です。相手は色々と自分のことを話してくれたり、相談してくれたりするのに、自分はそのような気になれない場合ですね。3番目の図はどうでしょうか。これは、自分のことを理解して欲しくて、心の窓を大きく開けているのに、相手がそこを訪ねて来てくれない場合です。2番目の図と立場を逆にした場合で、「わかってくれない病」はまさにこの図のような状態です。このように、お互いの心の窓の大きさが異なることがある、ということを理解すると、「わかってもらえるはず」という期待は少なくともすむのではないのでしょうか。理解を求める過剰な期待が「わかってくれない病」の根源なのですから。



地域医療連携室からの お知らせ



地域医療連携室では地域の医療機関との連携を強化し、患者サービスを充実させるために次のような活動を行っております。

- ① 地域の医療機関からの紹介患者様の診療予約業務
- ② 診療情報提供書等の送付業務
- ③ セカンドオピニオン外来の申込み受付業務等
(平成18年2月開始)

◆セカンドオピニオンは患者様が治療を選択する権利を保障するもので、本院の専門医師の意見や判断を提供することで、患者様が最良の治療を選択の参考にさせていただくものです。なお、詳細は病院ホームページ

(http://www.okayama-u.ac.jp/user/hos/index_hos.html)に掲載する予定です。

セカンドオピニオン外来の診療科・担当医・申し込み方法等の詳細は患者支援係(086-235-7205)までお問い合わせ願います。

* PEG の勉強会を開催しました *

平成17年8月24日・9月7日・9月21日に、NST(多職種による栄養支援チーム)・支援センター共催PEG集中勉強会を持ちました。今回は地域連携活動の一つの試みとして、岡山記念病院・特別養護老人ホームあさひ園、訪問看護ステーション紙ふうせんの皆様も参加くださいました。

院内・院外含め、3日間で述べ167名の医療・介護・福祉職の方々がPEGの基礎知識、栄養管理の実際、スキンケアの基本について共に学びました。

今後も地域連携活動の一環として、ニーズに即したテーマを取り上げ継続したいと願っています。ご意見・ご要望を支援センターまでお寄せ下さい。

☞PEG(Percutaneous Endoscopic Gastrostomy: 経皮内視鏡的胃瘻造設術)は、口から食事のとれない人、飲み込む力のない人のために、直接、胃に栄養を入れるためのおなかに小さな「口」を作る手術です。

参考：NPO法人PEGドクターズネットワーク；
<http://www.peg.ne.jp/QA/index2.html>

今年も宜しくお願い致します



今年も院内・院外連携の推進のために、多職種で構成されるチームの強みを生かしつつ、組織横断的な活動を展開していきたいと考えております。

センタースタッフ一同



病院ピックス



12月20日、病院内にセルフ式カフェ「スターバックス」がオープンしました。外来棟1階の待合場所近くにカウンターと座席が設けられ、コーヒーを飲みながらくつろぐことができます。診察の待ち時間を少しでも快適に過ごして頂ければと思います。

編集後記

新年を迎えました。制度改正、新たな制度の導入など、私たちを取り巻く環境が変化する1年となりそうです。今年も患者様の生活の一助となる活動と、それに向けて地域の関係機関との橋渡しとなる役割を担っていく思いを強めていきたいと考えています。

